

八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニュースレター

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER

発行部数 3,000 部

Vol. 43

2020年1月発行

秋季企画展

植田家でみる意匠(デザイン)



ぶらりまちあるき

～古民家・街道・植田家周辺～

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十七)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

# 展示のご案内

小学校の教科書に登場する昔のくらしや道具、  
集めてみました!



石臼す



雪下駄(ゆきぎた)



小籠(こづち)



掛け軸(川下芦雁図)

「今年も、残雪は、ガンの群れを率いて、ぬま地にやっつけて来ました。」

- 冬季企画展 -

昔のくらしシリーズ:

じゅう

**住**

の道具

令和2年(2020年)

1月5日(日) - 3月16日(月)

休館日: 火曜日(2月11日(祝)は開館)、2月12日(水)・26日(水)

〈開館時間〉9:00~17:00(入館は16:30まで)

〈入館料〉一般250円、高校・大学生120円、中学生以下は無料

●2/11(祝・火) ギャラリートーク(昔の道具にふれてみよう!)

①10:30~ ②13:30~ ※①②開内館-30分程



小倉百人一首かるた

あさばらけ...

河鹿...ではない



枕屏風(まくらびょうぶ)

何年生の教科書に出てくる!?



糸車

キーカラカラ...



お美須道具

おはぐろ?

Uedake



タイプライター

八尾市指定文化財

安中新田会所跡 旧植田家住宅

〒581-0084 大阪府八尾市榑松町1-1-25 tel.072-992-5311 http://kyu-uedakejstaku.jp/

冬季企画展 「昔のくらしシリーズ:住の道具」

2020年1月5日(日) - 3月16日(月)

現在の教科書に登場する昔のくらしや道具を集めて展示しています。

[小槌、糸車、石臼、下駄、枕屏風、百人一首ほか]

※休館日は P15 をご覧ください

# Contents

- 4 秋季企画展  
植田家でみる意匠(デザイン)
- 6 2019「関西文化の日」関連企画  
八尾高校書道部コラボ展&植松灯籠の日
- 7 旧家で食事会
- 8 ぶらりまちあるき  
～古民家・街道・植田家周辺～
- 10 四会所だより(23)
- 11 年末行事～障子の張替え&おもちつき～
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ④③
- 13 植ちょピ(旧家で記念撮影～七五三～、イベント告知)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (三十七)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真



ギャラリーにて  
バックナンバー  
※配架中

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

### 《銅製兎耳付花瓶》

耳の長い2匹の兎が左右の取っ手を務めている銅製の花瓶。兎の意匠は古代中国では銅器の文様とされ、日本でも古くからみられる。「植田家でみる意匠(デザイン)」展は4・5頁を参照。





# 植田家でみる

# いしろう

# 意匠

# デザイン

2019年  
10/26(土)  
▶ 12/26(木)



家紋入り緑金物(刀装具)



家紋(卍紋)名入り油単ほか



安中新田の「安」の文字を意匠化した角字入り法被



カエルの目貫(刀装具)

## 秋季企画展 植田家でみる意匠

デザイン

令和元年(2019)年10月26日(土)~12月26日(木)までの期間中、旧植田家住宅展示室では、秋季企画展「植田家でみる意匠(デザイン)」を開催し、建物を含めた貴重な文化的資料の意匠に注目した展示を行なった。本企画展では、「意匠」を、「家紋」「つぼつぼ」「瓦」「機能と造形」「茶道具」「刀装具」「象牙」ほか、見た目や素材、機能などに分類し、感覚的なものの見方と意識的に視ることを解説した。

### ・「家紋」

植田家の家紋である「卍」(ひだりまんじ)は、西洋では今日もネガティブなイメージがもたれるが、本来的には吉祥の意味を持ち、めでたい紋様である。その家紋が入った「祝い膳」や巨大な油単、特注品と考えられる「銀製銚子」はまさに旧植田家を象徴している。また、安中新田の「安」の字を意匠化した「角字入り法被」も安中新田縁のものであることを伝える。

### ・「つぼつぼ」

一風変わって「つぼつぼ」の名称とともに特徴的な意匠が「つぼつぼ紋」である。もとは江戸時代、京都伏見のお土産品とされる小型の壺を文様化したものといわれ、お茶道具や小粋な



茶釜にみえて、  
← 実は重箱!?



獅子が乗った「音消しの壺」(左)と九谷焼香炉(右)



霰打ち湯沸し



茶釜形重箱



象牙に人物や建物、動物などが緻密に彫刻された牙彫作品。



象牙の製品 (煙管入れ、茶入れ、茶杓)



象牙

瓦



考古的な瓦の展示 (鬼瓦、軒丸瓦)

つぼつぼ、つぼつぼ、つぼつぼ…



壺々棚



砂張金透かし火鉢



つぼつぼ透かし刀掛け



つぼつぼ透かし姿見(板部分)

日用品にその意匠が見られる。

日用品と同様に建物の一部である「瓦」にも意匠が見られる。機能性と信仰に近い意味をもつ側面(厄除け、火除けなど)もあり、今回は「軒丸瓦」と「鬼瓦」を展示した。

・機能と造形、茶道具、刀装具、象牙

使うこと(使いやすさなど)を意識したデザインのもものは「機能美」、見た目に美しいものは「造形美」に優れているとされるが、収蔵品の中にはそのどちらでもないものや、両立したものもある。主観(感性)の問題ではあるが、獅子や龍などが装飾された「音消しの壺」とされているもの)や「霰打ち湯沸し」、「兎耳付花瓶」(本誌表紙写真)などが前者で、茶道具・刀装具は後者に当たると考えられる。一方で造形美に優れた「茶釜形重箱」や象牙製品の数々は、技術とともに、見るものに驚きと感動を与える。

この世にある全てのものは必ず誰かの手によってデザインされたものであり、その意匠は現在過去未来へとつながり、広がりをもつ。「植田家でみる意匠」は、意匠から植田家や当時の人々の営みを気付かせ、じっくりと見ることのできる安らぎを与えてくれるものであった。

(旧植田家住宅 学芸員 安藤亮)

# 「コラボ 展示」

例年11月を中心に関西一円の博物館や美術館等の入館料が無料になる（施設毎に開催期間が異なる）「関西文化の日」にエントリ。旧植田家住宅では11月16日（土）・17日（日）の両日を無料公開日とした。

この二日間を含めた11月13日（水）～24日（日）の期間、八尾高校書道部との初のコラボ展示を行なった。同校茶道部には毎年夏のお茶会で協力をいただいているが、今回の書道部との連携では、旧植田家住宅所蔵の書の掛軸を部員が書写し、それを座敷で展示するという内容となった。

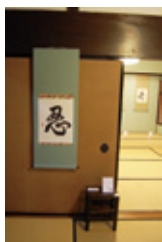
数回の打合せを経て、五名の部員がそれぞれ選んだのは「春夏秋冬」と「忍」の文字。普段書き慣れない書体に苦戦しつつも、よく観察し、力強く繊細な作品にそれぞれ仕上げがあった。さらに座敷の空間ともよく調和し、多くの来館者の目にも留まった。緊張と緩和がほど好い、ここならではの「コラボ展示」となった。



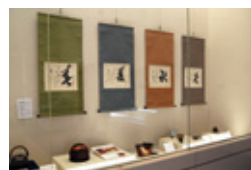
展示会場となった座敷の様子



植田家所蔵掛軸「忍」



書道部の書写作品



植田家所蔵掛軸「春夏秋冬」

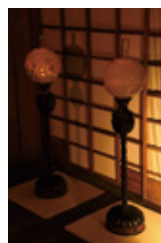
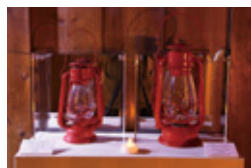
## 2019年「関西文化の日」関連企画



灯笼と影絵



ランプのミニ展示



部屋の中央で灯のともるテーブルランプの展示。  
(写真を撮るとハートが写ることも!?)

植松灯笼の日&夜間開館  
「ランプ（灯り）のミニ展示」  
「関西文化の日」初日の11月16日（土）は、年に一度の「植松灯笼の日」を開催。この日は、庭の全ての灯笼に灯をともし、夜間開館を行なった。灯笼の薄明かりの下、庭先にある土蔵2に入ると、そこは「ランプのミニ展示」の会場になっている。八尾市で今も伝統を守りながら新しいものを創造するランプメーカー WINGED WHEEL の協力により、今宵限りの特別な空間が広がる。  
開業95周年を迎えた同社の歴代のハリケンランプをはじめ、生産数限定の貴重な記念ランプも間近にみる事ができた。また実際に灯をともしたテーブルランプを囲み、来場者たちは思い思いに語り合った。旧植田家所蔵のランプも共に歴史を伝え、贅沢な時間を共有した。  
(施設学芸員)



「かまどのご飯」と「なにわの伝統野菜」を味わう

きゅうか たの しょくじかい  
旧家で愉しむ食事会



2019年11月29日(金)



食器の準備と熱洗浄(前日)



炊きたてかまど飯



かまどでトーク



なにわの伝統野菜 松花堂弁当



食事会のあいさつ (お腹が鳴る)



美味しい料理に舌鼓



## 11 / 29 旧家で食事会

年に一度の目玉企画「旧家で食事会」が昨年11月29日(金)閉館後の旧植田家住宅で行なわれました。毎回20名限定のため、予約開始からすぐに定員となってしまいます。

一昨年からは八尾の懐石料理・佑和(山城町)さんにご協力をいただき、庭の畑で栽培した天王寺かぶらや金時人参など「なにわの伝統野菜」を存分に活用した松花堂弁当を作っていたでいます。また旧植田家で実際に使用していた昔の食器を使い、かまどで炊いたごはんと煮物などの料理も別で用意されました。

食事会の前には、恒例の夜間見学会もあり、終始、至れり尽くせりのゆったりとした時間を過ごしていただきました。ちなみに、食器も場所も八尾市の文化財であることを最初に説明すると、ちよつと緊張した様子となりましたが、「来年もまた来たい」「今から予約できないか」などの喜びと期待の声を頂きました。

(旧植田家住宅スタッフ)

ぶらりまちあるき

## 古民家・街道・植田家周辺

二〇一九年度は、例年より早い時期からそして長い期間で開催することになった「河内の古民家めぐりスタンプラリー」。この連携事業として昨年も実施した「古民家まち歩きツアー」は、各施設・団体等が中心となり、それぞれの地域で行なっている。

旧植田家住宅では、旧大和川の足跡を辿る恒例のまちあるきの要素に加えて「古民家・街道・植田家周辺」をぶらり散策した。今なお残る古いまちなみと、さらに今回は「食」の要素もプラスし、最終地点を旧奈良街道沿いに建つ昭和三九年創業の老舗旅館「山清荘」とし、人気のランチを堪能した。

まちあるきの出発は、午前9時、旧植田家住宅の中からスタートした。施設内では、10月2日からギャラリーで開催中のミニ展示「八尾再発見！【航空写真】にみる八尾」龍華・安中・植松周辺」に展示された昭和二十三年から平成十九年までの航空写真を、まずは写真上でまちの移り変わりや仮想まちあるきを楽しんだ。

2019 河内の古民家めぐりスタンプラリー 連携事業  
古民家のある河内のまちを歩く(まち歩きツアー)

10/18  
(金)

# ぶらりまちあるき

## ～古民家・街道・植田家周辺～

+

10/2～22 八尾再発見！  
【航空写真】にみる八尾  
～龍華・安中・植松周辺～



植松村西口の常夜燈



古民家と水路のある風景



安中元地藏

続いて植田家周辺の新田の様子が描かれた江戸時代の「安中新田分間絵図」でも同様にルートを確認し、まずは渋川神社へ向かった。いつものように旧大和川の堤跡と考えられる勾配や段差などを見つげながら神社をあとにすると、踏切を渡ってこれまたいつものレンガ造の壁を横目に、江戸時代から近代の遺産にふれた。

現代の遺産といえば、昭和に造られ、いまや使われなくなってきた歩道橋が、周辺にはいくつも見られる。旧龍華出張所(龍華コミセン)と現コミセン(龍華図書館)前の道路の歩道橋を渡ると、今回のテーマである古いものと新しい風景がみえてきた。また近くの大聖勝軍寺では遠い歴史を身近に感じ、境内では参加者が見つけた菩提樹の実を使った遊びを教えてもらい、しばらく童心にかえって遊んだ。

後半、旧植田家住宅の庭に移築されたものと同じ常夜燈を確認し、最終地点を目指して旧奈良街道沿いを歩く。通りには古くからのお寺や地蔵、民家などが今も建ち並び、水路も残る。あつという間に目的地に辿り着き、この日、五感の全てが開放された。

(指定管理者 NPO 法人 HICALI)





長瀬川



JR八尾駅周辺。旧大和川堤跡の段差を確認。



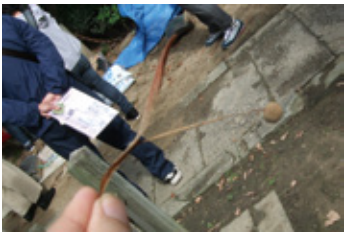
淡川神社を散策。鳥居が並ぶ場所にて、地形から旧大和川の流域を感じる。



「航空写真」(上)と「絵図」(下)で仮想まちあるき



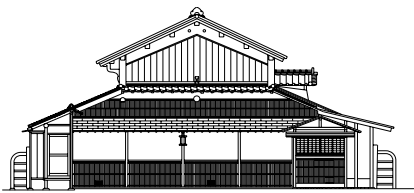
童心にかえって、空高く  
実を飛ばして遊ぶ参加者たち



大聖勝軍寺にて。参加者がみつけた菩提樹の実でむかし遊びを開始。



旧竜華コミセンの「歩道橋」(上)と現コミセン横の「鎗矢塚」(下)



現在、植松周辺を紹介する「つえまつぷ3」を製作中。  
3月完成予定。  
旧植田家住宅にて配布予定。



あっという間に目的の「山清荘」へ到着。歴史的景観と美味しい昼食を味わう。



旧奈良街道を歩く



# 四会所だより (23)

## 「新たな新田会所!」

鴻池新田、加賀屋新田、平野屋新田、安中新田の四会所交流(当初は平野屋新田を除く三会所交流)を開始してからおよそ10年が経ちました。会所間での情報交換や啓発を目的に緩やかな交流の場を設けてきましたが、今年度からはなんとオリジナルメンバーが全て入れ替わりました。突然入れ替わった訳ではありませんが、旧大和川の水流のように、徐々に形を変えながら今日に至ります。ちなみに当時アルバイトの身であった筆者は、陰ながらその様子を最初から眺めていました。

新田の歴史を伝える各会所の目的や役割は変わらず、そのための様々な取り組みについてこれまで話し合い、実行してきました。今も継続中の「四会所スタンプラリー」は、現在でも密かに利用があり、忘れた頃にその台紙を持った来館者が訪れたりしています。また、今回で23通目となったこの「四

会所だより」も、各会所の最新情報や裏話などを知ることができ、個人的にも楽しみにしています。

さて、今回は安中新田会所の番となりましたが、当施設の活動については毎回「植田家だより」で紹介しているため、今回は令和元年11月に発表された新たな新田会所!について少しだけ触れたいと思います。既にご存知の方も多いかと思いますが、堺市の新田会所「筒井家住宅」です。

11月15日の「堺市報道提供資料」によると、同日、国の文化審議会が開催され、登録有形文化財(建造物)として「筒井家住宅」(堺市北区中百舌鳥町)が文部科学大臣に答申。名称は「筒井家住宅」1箇所、主屋・座敷棟・茶室・門長屋・土蔵・土塀の6件が登録されたというところで、堺市内の登録有形文化財(建造物)はこれで19箇所となるそうです。

建物の概要については、「筒井家住宅は、百舌鳥古墳群の中央に位置する江戸時代初期の新田である「夕雲開」の実質的な開発者であった木地屋庄右衛門(筒井氏)が新田開発の管理所として建築し、後に居宅化した

住宅」ということで、残念ながら宝永元年(一七〇四)の大和川付け替えによる新田会所ではありませんでした。むしろ筒井家住宅のほうが歴史と伝統は長く、新田開発の管理所として建てられた会所屋敷は江戸時代前期から後期までの姿が留められ、旧植田家住宅と同様に江戸時代の建物と歴史的景観をより今に伝えているといえます。

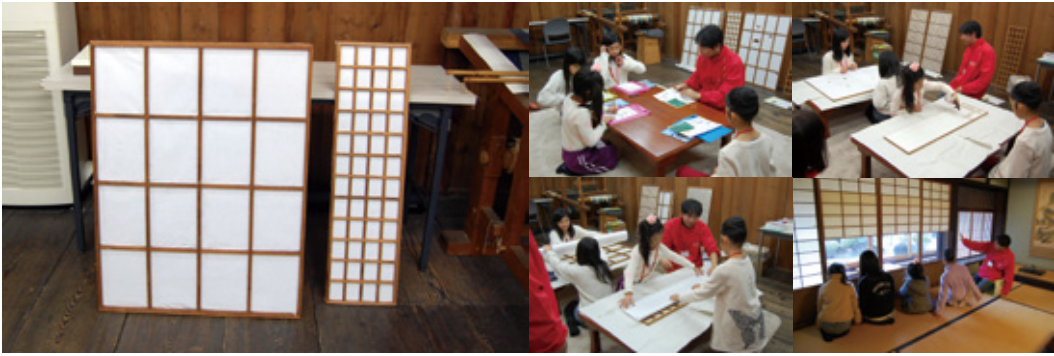
五会所交流となりそうではありませんが、今後も新田会所についての情報を発信していきたいと思えます。

(安中新田会所跡 旧植田家住宅 安藤亮)

### せきうんびらき【夕雲開】

大坂の陣後、摂河泉(摂津・河内・和泉)の幕府代官は、元和・寛永(六一五・四四)のころ各地で川口干潟、川面荒芝地、開残荒地などの開発を積極的に推進した。その代表的な一例が夕雲開(現大阪府堺市)である。寛永年間(六一四・四四)、幕府代官高西夕雲が堺の商人木地屋庄右衛門の協力を得て、和泉国大島郡の仁徳陵周辺から東にひろがる原野に新田を開発、当初は万代新田と名づけたが、開発者の名にちなんで夕雲開と呼ばれるようになった。





※「しょうじのはりかえ」に挑戦!

# 子どもガイド

たいけんこうざ

# 体験講座 (冬)



2019年  
12月14日(土)

◇昔のくらし体験くおもちつき大会く  
恒例行事として開館当初から続けている「おもちつき大会」(植田家が住んでいた往時も毎年行なっていたのだらうと想像)。近年のもちつき中止(自粛)の風潮を背に、昔ながらのかまどもち米を蒸して、白と杵で搗くおもちつきの文化を絶やすことなく、万全の衛生対策の下、実施する。火を使う、もち米を蒸す、もちをつく、返す、丸める、熱さを知る、じっくりと味わう、これらを一人ではなく大勢で共有する。現代社会で失われてしまったものをこの日、少しだけ取り戻した。

(旧植田家住宅職員)

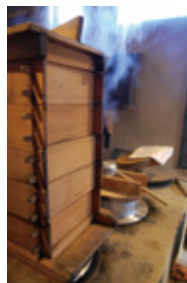
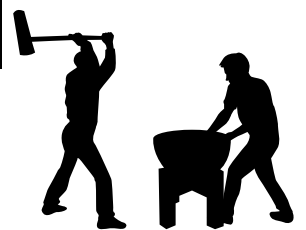
◇子どもガイド体験く障子の張替えく  
毎年末に実施する「子どもガイド体験講座く冬のくらし」では、今年も参加者の子どもたちに建物のガイドをしたり、勉強した後、障子の張り替えに挑戦してもらった。今回は低学年と高学年の2チームに分け、少しタイプの違う障子を用意。古い紙を剥がす前に、お約束の紙破り(穴あけ)を行ない、やりすぎると剥がすのに苦労することを体験してもらった。  
協力し合って糊をのせ、きれいに張り終えることができた。これで気持ちよく新年を迎えることができる。

むかしのくらし体験

# おもちつき大会

2019年 12月21日(土)

よいしょーーーッ!



念願かなって...

なにわの伝統野菜  
栽培日記

No.43 終

あざすすっ!!!

(ありがとうございます)



大根フェスタの様子

【これが本当の栽培Bye日記】

大願成就し、腑抜けになった訳では決してありませんが、3月末をもって私KAMAは「卒園」することになりました。畑のほうも長年の活用で連作障害がでていたため、いったん休園し、この「なにわの伝統野菜栽培日記」も、今回をもちまして終了です(栽培Bye)。

この10年間でお力添えいただいた皆様や温かく見守って下さった保護者の方々と、何より一緒に野菜を作ってくれた全てのこどもたちにたくさん事を学ばせてもらい、心よりお礼申し上げます。ここで積んだ色々な経験を糧として、今後には活かしてまいります。  
本当にありがとうございました。

※今後、「体験農園」のメンバー募集の予定はありません。  
畑の場所を活用した新たな企画を計画中。乞うご期待。

↑「これぞ田辺大根de賞」(最高賞)と  
「みんなが選んだ田辺大根賞」(特別賞)  
のダブル受賞!!



# マンジークン

安富士 暁



「植田家住宅のちよっとしたトピックス」  
話題

## 植ちよぴ。(ックス)

### ◆終了したイベント

#### ・「旧家で記念撮影〜七五三〜」

2019年11月2日(土)〜11月24日(日)

3歳、5歳、7歳の子どもの成長を祝う行事「七五三」の記念に、旧植田家住宅の座敷や庭で自由に記念撮影ができる「旧家で記念撮影」を、今年も11月の一定期間に行なった。由緒ある渋川神社のすぐそばということもあって、お参りを済ませた家族連れの方々に多く利用して頂いている。

常連でふだんよく訪れる子どもたちの中に

も毎年「七五三」の子が一人から二人はおり、今年も綺麗な衣装に身を包む子どもと、その姿を撮影する家族の微笑ましい光景がみられた。年中行事ごとに開催する「旧家で記念撮影」次回はひな祭りであろうぞ。



座敷の襖絵の前で、七五三の記念撮影を楽しむ様子。



### ◆開催中のイベント

#### ・「旧家で暖家支援」〜3月1日(日)まで

今年度からスタートした冬限定企画「旧家で暖家支援」は、入館者の少ない冬に旧植田家住宅

を楽しみながら心も体も暖かく過ごしてもらおうと、「こたつ」や「昔ながらの方法」で支援する。夏限定の「冷やし旧家はじめました」の冬版ともいえる本企画では、甘酒やココアなどの暖かい飲み物も用意している(有料)。また、イベントとして「石臼珈琲体験」や「火鉢・かまど」も実施。詳細は旧植田家住宅までお問い合わせください。

2020 冬限定企画

## あったか 旧家で暖家支援

こたつや昔ながらの方法で、楽しく心と体を「あったか支援」!

●期間中「こたつで「暖らん」」「飲料販売」「昔の道具体験」などを実施予定(一部有料)。

※詳細はお問い合わせください。

実施期間:令和2年(2020年) 1/12(日)〜3/1(日)  
 開催時間:10時〜16時まで  
 ※日にも開催の内容も異なります。

お問い合わせ・お申込み 072-992-5311  
 info@kyu-uedakejutsuko.jp

「旧家で暖家支援」のチラシ(施設、他にて配布中)

## 落穂拾い

## ― 今東光の童風 ― (三十七)

文・伊東健

先月まであべのハルカス美術館で開催されていた「ラファエル前派展」を観覧しましたが、ラファエル前派を代表する画家ガブリエル・ロセッティは今東光が心を奪われた画家のひとりでした。

実は、東光は八尾市山本の自邸にロセッティの「婦人像」を飾っていたことがあります。その様子取材した週刊誌の記事に東光が寄せた文章も寄せられています。

昭和の初めごろだったと思うが、松方コレクションの第一回の展覧会で、この絵を初めて見た。額やガラスで重さが九貫以上もあるのに、これを吊り下げているわが家の造作も、いささか狂って来たようだ。

これを描いたロセッティは詩人で、十九世紀イギリスのラファエル前派の画家、妹のクリスティーナ・ロセッティも詩人である。ロセッティ等ラファエル前派の連中の理想は、時代の悪趣味と空虚な不自然さ

からぬけ出し、早期ルネッサンスに憧れ、ラファエロ以前の純朴な芸術に還ろうとすることであった。この絵も十九世紀イギリスの普通の娘をローマ風の服装をさせて描いた理想画である。

(「美のあるところ」週刊現代所収)

昭和三十八(一九六三年九月五日発行号より)

簡潔にして要を得たラファエル前派の説明ですが、東光とロセッティとの出会いはもっと早かったようで、自伝的小説とされる「悪童」の作品中でも幾度も触れられています。関西学院中等部時代に老教師より指摘される西洋絵画の背景にある信仰の問題への言及は、後に自身が出家することを考えれば、とても興味深い記述です。

(前略)そして西洋流の模倣と影響の幽鬼に取り憑かれている洋画をこそ今一度、振り返って考え直さなければならぬと気付いたのであった。

ジヨットオの慎ましい虔しさは彼の僧院生活から生れたものであることを何人も肯定せずにはいられないであろう。アンジェリコの童心に近い作品もその小児の如き信仰なくしては生れなかったのだ。

ダヴィンチにしる、ミケルアンジェロにしる、ラファエルにしる、チントレットオにしる、それ等の優れた作品は悉く敬虔な信仰の所産であった。私の好きなダンテ・ガブリエル・ロセッティにしても、バーン・ジョーンにしても、彼等のラファエル前派の絵画はイギリスに於ける信仰復興の運動と合致していたことが裏付けされていた。(後略)

(「悪童」昭和三十二(一九五七年十月三十一日)

株式会社現代社発行より)

ロセッティ作品が、八尾の自宅に飾られていたことを思うと、東光の喜びも想像できますが、愛犬を抱えて撮影されている東光は神妙そのものの表情をしており、何となく緊張している面持ちがチャーミングですね。



『週刊現代』(S38.9.5号)の写真が掲載された『Wao!Yao! 八尾の入口』(2013.3.27 発行)より。



【2020年2月～4月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2020年

◎1月5日(日)～3月16日(月)

企画展「昔のくらしシリーズ:住の道具」

※2/11(祝) ギャラリートーク

◎3月20日(金)～4月20日(月)

通常展「大和川付替えと

植田家の収蔵品～資料～」

展示、イベント等のお知らせは  
 ホームページをご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

2月 ■ 1日(土) 開館10周年記念講座③外から見た植田家の話

□ 15日(土) 旧家で芸能伝統文化「落語の家」

■ 16日(日) 石臼珈琲体験

□ 29日(土) 連続体験講座「手習い所-壺-」

3月 ■ 28日(土) 連続体験講座「手習い所-式-」

☆ 2月22日(土)～3月15日(日) 旧家で記念撮影～ひなまつり～

4月 未定

☆ 1月12日(日)～3月1日(日) 冬限定企画「旧家で暖家支援」

☆～3月15日(日)  
 河内の古民家めぐりスタンプラリー 開催中!



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

■ はイベント開催日

2 February

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

3 March

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

4 April

※変更になる場合あり

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

●開館時間: 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日: 火曜日・祝日の翌日・年末年始  
 (詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料: 一般250円(団体20人以上で120円)  
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談 ※施設案内(無料)、講座室利用(有料)など

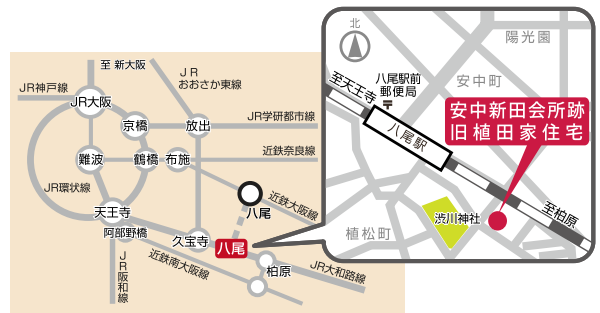
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。

実施中「数値限定」  
 リビーターカード



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分  
 ◇近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
 JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

